

新年あけましておめでとうございます

昨年中は会員の皆様、関係機関の皆様方には大変お世話になりました。2018年は医療介護同時30年改正前の市町計画がつくられる年であり、大きな変化・節目の年になりそうです。

今年が皆様方にとって更に前進できる年になりますこと、心より願っております。

以下新年早々ですが

平成28年12月9日介護保険部会の介護保険制度見直しに関する意見（概要）は目を通されましたか？読んでいない方は、是非、目を通しておいてください。

30年の改正の目玉は、なんといっても「地域包括ケアシステム」を現実のものとしていくために（これまではどちらかという御旗だけとか、イメージ先行でしたが）、その布石が具体的に打たれようとしていることだと思います。大変ですが国も本気のような感じです。私たちの介護保険事業にどう影響していくか、また何を選択していったら良いか、そういう視点で読み下しておくべきです。

「何とかなる」「何もかわらない」というのは恐らくないでしょう。すでに投資したもの（又はしようとしているもの）が時代遅れのものになるとしたら大変です。たぶん介護保険事業はこれから「本丸」と考えた方が賢明でしょう。大きな変化のはじまりですが、これからずっと続いていく（変化していく）ものなので、スタートラインに立つという姿勢で臨むことが大事ではないでしょうか。介護保険のサービスメニューを用意し、良質なサービスを提供し、経営するという手法で、要介護者のニーズに応じてきた従来のデザインは残りますが、より中重度にシフトしていくことは必須です。それ以外には、介護保険事業者が各々の地域でどう「地域づくりをデザイン」できるかということでしょうか。それは「介護予防・日常生活支援総合事業」と合わせてやっていくということですが、生き残るためにはこの二つの選択肢のどちらでやるか、ということを考えることも重要です。

今回の改正概要で大半を占め非常に重きをおいているのは、やはり一番は介護予防と自立支援、多様な生活支援サービスなど。他にケアマネジメントの見直し、中重度を支える地域の機能、地域共生のサービス、地域密着型サービスの見直しなどで、従来の施設サービスや居宅サービスへの記述はわずかとなっています。

今回「医療・介護連携」や「認知症対策」などの課題も並行し力を入れる事業となっています。ただそれら事業の充実を図る上で、その基盤としてなくてはならないものとして「介護予防・日常生活支援総合事業」は特に重要とされています。介護保険の「サービス」だけだったものから、よりデータ化で「見える化」（ある意味格差を公にする？）し、住民を巻き込んだ総動員の仕組みに生まれ変わろうとしています。

29年度は、総合事業を進めるための「生活支援体制整備事業」が昨年以上に加速していきます。設置されていく第1層又は第2層の協議体のメンバーに参画されることはお勧めです。よりこれからの介護保険の変化を体感できます。30年改正に備え、29年度、是非、皆様の事業の

方向性を明確にさせていただいて、共に新しい介護保険や、佐賀県地域共生ステーションの取り組みに生かしていけることを願っています。

.....

..... **【佐賀県地域共生ステーション**

連絡会関連】

昨年度に「平成27年度佐賀県地域共生ステーションにおける生活支援サービス等に関する調査・研究報告書」を佐賀県に提出しています。そのご回答を佐賀県から頂いておりますのでご紹介いたします。

平成17年度に地域共生ステーション推進事業を創設してからおよそ10年が経過しますが、地域共生ステーションが利用者や地域住民に対してどのような役割を果たしているのか、また、今後の地域共生ステーションの発展に向けた課題などを明らかにすることを目的として地域共生ステーション連絡会に委託してアンケートを実施したところ、様々なご意見をいただきました。県ではこれらの意見を参考としながら次の3つの事項を課題として整理し、重点的に取り組んでいくこととしています。

まず一つ目が宅老所からぬくもいホームへの転換を図ること。 将来（10年後）の佐賀県の姿を見据え、その実現に必要な4年間の政策を記載した「一佐賀県総合計画2015一人を大切に、世界に誇れる佐賀づくりプラン」において、地域共生ステーションを地域福祉の推進を図るうえでの重要な拠点の一つとして位置づけており、宅老所からぬくもいホームへの転換を図っていくことを目標に掲げています。アンケート結果でも回答いただいた約80%の事業所等が高齢者のみを受け入れ対象としており、障害者・子どもも受け入れていただくよう促進し、ぬくもいホームへの転換を図っていきたいと考えています。

二つ目が地域共生ステーションに地域住民の方の参画を進めていくこと。 地域共生ステーションの経営や運営には、地域住民の方にボランティアなどで参加していただきたいと考えていますが、まだ十分にできていない地域も見受けられますので、地域共生ステーションを理解していただくための住民参加型・地域福祉づくりセミナーの開催など普及啓発が必要だと考えています。

三つ目が地域共生ステーション全体の質の向上を図ること。 地域共生ステーションは、縦割りの行政制度では対応できない様々な地域のニーズに応え、急な泊りや預けへの対応など制度の隙間のサービスとして、柔軟なサービスを提供されているところですが、事業所間でのサービスの質に差が出てきています。また、近年は営利法人の参入が多くなってきており、いっそう質の向上に向けた取り組みが必要と感じています。現在、地域共生ステーション連絡会と連携しながら、経営者や従事者への研修や、アドバイザー派遣による質の向上や人材確保に関する取組について指導・助言を行うとともに、新規開設に伴い届出が提出された際にも指導、助言を行っていますが、今後とも全体の質の確保に向けてしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

その他、今回のアンケートを通じていただいた地域共生ステーションの皆様の貴重な声を今後の施策に反映していきたいと考えています。最後になりますが、地域共生ステーションの皆様におかれましては、お忙しい中、アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。地域共生ステーションが地域共生の拠

点として、誰もが気軽に集い交流し情報交換できる居場所となることを期待しています。

佐賀県健康福祉部福祉課

課長 高尾 徳二

②平成 28 年度アドバイザー派遣事業

1 2月派遣協力の皆様大変おつかれさまでした

1 2月は、佐賀県地域共生ステーション開設等支援事業「アドバイザー派遣事業」が実施されました。県内の地域共生ステーションに登録している事業所 8 事業所を訪問しています。

県では今後、共生や住民参加型の「ぬくもいホーム」への転換を推奨しています。宅老所の実践の中にもその機能は目指すべきものであり、「宅老所」「ぬくもいホーム」として登録している事業所では是非、先行した取り組みの実践を期待致します。

最近の制度づくりにおいて「共生型給付」「混合介護」など新たな言葉も生まれています。それらは今後の介護保険や高齢福祉また、地域福祉づくりのために必要に迫られているものですが、こうした発想は、すでに過去から連絡会では持ち得ていたこと、法律はいつも後追いであることを忘れないでいたいものです。良いと思うことは必ず最後には実現するものです。法律を遵守し、且つ共生の実践をすることは大変ですが、各々の事業所で温めながら折り合いをつけていきましょう。

アドバイザー事業にご協力いただいた事業所の皆様の今後の健闘をお祈りいたします。お忙しい中、誠にありがとうございました。

アドバイザー事業は1月まで予定されています。

③地域共生交流イベント in 多久（3月予定）

昨年度から実施した、地域共生交流イベントは、千代田、唐津、鹿島で今年度は3回実施して

います。まだ試行的な事業ではありますが、地域共生ステーションと地域のつなぐ取り組みとしてその意義を感じています。

今回は3月に、多久市の「地域共生ホーム愛あい」を中心に、3月に多久駅のアイパレットで開催する予定です。皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

④年度内に「地域共生ステーション資質アップ研修会」の予定

今年度は、介護保険の動向について、総会で市民協の田中尚輝氏、資質アップ研修講演会で千葉県から津金澤寛氏をお招きし、研修会を開催しました。年度内にもう一回、今度は、職員向け研修になります。調整後、チラシ等でお知らせいたします。

⑤ブロック情報

中部ブロック（佐賀市・小城市・多久市・江北町・大町町）

■12月14日 中部ブロック忘年会を開催しました。

■生活支援スタッフ研修報告 平成28年12月19、20日 両日 9:30~12:30

ふくしの家で、循誘校区の住民を対象に「生活支援スタッフ研修」が開催されました。9名の住民の方が参加され、介護保険、施設介護、訪問介護、認知症、車椅子の介助方法、多様な生活支援サービスの講義を受けられました。

介護や地域づくりに関心の高い住民の方は「いる」ということ、ただ介護のイメージもあり一歩踏み出すには敷居が高く、入口研修としてこうした取り組みは大事だし、こうした研修がきっかけとなり、担い手につながるということでした。

研修後は、まちのホーム循誘で体験実習も行い、担い手としてやりたいという声があがりました。

■おあしす地域共生ホームあいあい共催で「中部地区地域交流イベント」予定 3月予定

西部ブロック (武雄市・鹿島市・嬉野市・白石町・太良町)

■1月18日(水) 研修会：「移動介助(地域リハビリテーション)」
時間：19時~21時 場所：鹿島交流プラザ
研修担当：ひなた・ゆたたり
※ふるってご参加ください！！

北部ブロック (唐津市・伊万里市・有田町)

東部ブロック (神崎市・吉野ヶ里町・上峰町・鳥栖市・基山町)

.....
.....

【さが福祉移動サービス・ネットワーク関連】

①3月第41回移動サービス認定運転者講習会(国土交通大臣認定)開催されます

(日程またお知らせします)

第41回目となる福祉有償運転者講習会を鍋島レスト総合福祉ビルハーモニーで実施します。日程はまたご案内致します。福祉有償運送団体は、県内では30団体程度。あまり増えていません。増えない要因は色々ありますが、人口減少や高齢社会を迎え、必要性は今後更に高まりそうな気配です。

外出が困難な方の移動手段確保の視点、地域づくりの視点から、団体様も個人様でも学びの多い講習になっています。ふるってご参加ください。

「移動サービス認定運転者講習」 移動サービスをはじめませんか！！

第41回移動サービス認定運転者講習会（福祉有償運送大臣認定講習）をさが福祉移動サービスネットワークにて開催いたします。福祉有償運送実施団体の方はもとより、デイサービスの安全運転のスキルアップ、また、今後、総合事業がはじまり生活支援の中の移動支援に関心を寄せていただく上でも受講をお勧めしています。「さが福祉移動サービス・ネットワーク（ふくしの家0952-36-6865 又は、ふくしの家HPから申込み用紙をダウンロード）にお申込みください。総合事業においても移動支援である「訪問D」をどう位置付けるか今後大きなテーマになります。移動サービスの理解を深めていきましょう。

申込書ダウンロード <http://www.fukushinoie.jp/>

②～訪問型サービスDは使えるか～

移動外出を多様な生活支援サービスで推進するセミナーin大分 参加報告

12月13日（火）13:30～16:30、ホルトホール大分 2F サテライトキャンパス講義室にて、全国移動サービスネットワーク主催の研修会が開催されています。さが移動ネットから、中原たすけあいの会・ふくしの家が参加しています。

総合事業の先行市である千葉県松戸市からの報告や、訪問Dを位置づけた鹿児島県薩摩町の取り組み、訪問Dではないが、たすけあいの居場所づくりから移動の課題解決を図ろうと始めた大分県国東市の取り組みなどが発表されました。

先行自治体では、総合事業による新しい移動手段が取り組まれていたり、検討段階に入っています。道路運送法の問題はありますが、各々の地域にあった移動手段を確保していく動きはこれから益々活発になりそうです。

③講師派遣 平成28年12月26日大分県臼杵市

臼杵市医師会立コスモス病院2階会議室で、地域毎の住民と事業者を交えた、第2層協議体を目指す勉強会に、さが移動ネットから講師（中原たすけあいの会・ふくしの家）を派遣しています。中原たすけあいの会の、福祉有償運送やもやい号の運行など、熱心に耳を傾けられていました。大分県は県域で移動支援のムードが高まっています。総合事業の推進も早いイメージですが、移動サービスについては、県全体で遅れています。ただ総合事業に住民主体の移動サービス（登録や許可を要さない移動手段）については九州内でも先行しそうな意識の高まりです。

④佐賀県地域公共交通活性化協議会がはじまっています

さが福祉移動サービス・ネットワークから佐賀県地域公共交通活性化協議会・タクシー等対策部会の委員として代表世話人が選出されています。部会ではタクシー等の活性化及び適正化等について、利用者に必要とされるタクシーを目指し協議され、施策に活かされます。

⑤佐賀県の福祉有償運送団体

平成28年11月1日時点で、37団体となっています。県によっては実施する団体が増えているところもあります。県内でも地域によっては移動サービスを実施できるところが不足しています。

社会貢献の一つ、サービスの一環として、是非参画下さい。福祉有償運送を実施したい団体様は相談をお受けしています。お気軽にご相談ください。

http://www.pref.saga.lg.jp/kiiji0031144/3_1144_25454_up_036enal5.pdf

(佐賀県HPより)

.....
.....

【事務局より】

●イベント・研修情報

★NPO向け遺贈寄付研修～高齢者の社会貢献の鍵を握る遺贈寄付の実践～

1/24(火) 18:30～21:00 場所:佐賀商工ビル7F D、E会議室

主催:遺贈寄付推進会議 共催:公益財団法人佐賀未来創造基金

申込みURL <http://bit.ly/izokifu> 費用1,620円 締切1月22日 定員30名

●第10回在宅ネット・さが 市民公開講座

★在宅で紡がれたいのちの物語～在宅療養の現場からの報告～

2/25(土) 14:00～16:30 場所:アバンセホール 資料代500円

※佐賀県地域共生ステーションでも後援しています!!

主催:在宅ネットさが 連絡先0952-29-6121

●地域医療介護総合確保基金(介護分)に係る事業提案しています。

世話人会で、上記基金についての勉強会を実施しましたが、新しい総合事業に係る生活支援の担い手確保に係る研修(地域支え合い担い手養成研修)を連絡会事業として、佐賀県に提案しています。

採択されるかどうかは未定ですが、動きがありましたらご報告いたします。

●2月21日(火) 13:30～15:30

佐賀県地域共生ステーション連絡会世話人会です。万章繰り合せの上ご出席お願い致します。

●平成28年度会員更新状況

今年度より、会費を年5,000円/1法人、と改定しました。会費の納入がお済でないところはお早目にお問い合わせ致します。未納の団体様にはご案内致しますのでお願い致します。

●認定NPO法人市民福祉団体全国協議会のグループ会員になりました。

連絡会で市民協の会員になりましたので、連絡会から随時市民共のMMニュースも配信します。

●会員様の共生や地域づくりの取り組みをお寄せください。

●事故にはくれぐれもご注意ください。

デイサービス事業所で、内部研修で安全運転講習を企画される場合は、ご連絡ください。

●書籍販売 (総合事業への取組の参考テキストにどうぞ)

◆改正介護保険推進のために 総合事業移行への自治体とNPOの役割
認定NPO法人市民福祉団体全国協議会 監修

※入荷予定

◆住民主体の生活支援サービスマニュアル3「居場所・サロンづくり」
公益財団法人さわやか福祉財団 編 1,200円

※6冊あります。

◆住民主体の生活支援サービスマニュアル6「移動・外出支援」
特定非営利活動法人全国移動サービスネットワーク 編 1,200円

※10冊あります。

◆私たちが描く新地域支援事業の姿～地域で助け合いを広める鍵と方策～
※入荷してませんが、購入の方はご連絡ください。

●佐賀県CSO支援自販機を設置しています

佐賀県地域共生ステーション連絡会では、佐賀県と協働し「佐賀県CSO支援自販機」を、コココーラウエスト様及び西日本ビバレッジ様のご支援により下記に設置しております。

★コココーラウエスト様自販機 アバンセ1F

★西日本ビバレッジ様自販機 九州シンクロトロン光研究センター2F交流センター

CSO支援飲料水等の購入による売上の一部を自販機設置事業者がCSOに寄付する自販機のこと、連絡会の活動資金に活用させていただいています。社会貢献活動や寄附文化意識の向上にも寄与するものです。施設をご利用の際はCSO自販機をご利用ください。

「コココーラ・ウエスト様」「西日本ビバレッジ様」ご支援誠に有難うございます。

.....

～地域福祉推進拠点のネットワーク～

佐賀県地域共生ステーション連絡会

～移動自由な地域を目指して～

さが福祉移動サービス・ネットワーク

〒849-0937 佐賀県佐賀市鍋島三丁目3番20号（鍋島シエストハーモニービル3F）

認定NPO法人市民生活支援センターふくしの家事務局内

TEL：0952-36-6865 FAX：0952-36-6895

メール：fukusinoie@world.ocn.ne.jp

佐地共連ホームページ <http://sachikyouden.com>

※メールアドレスが不明なところにはファックスにて送信しております。

※ファックス受信の事業所様は、お手数ですが、上記メールアドレスにご返信ください。

※このMMニュースは、関係行政機関にも配信しています。